学力をグングン伸ばす！

家庭学習のすすめ

■学力アップは規則正しい生活から（早寝・早起き・朝ごはん）

■時間を決めて、毎日取り組みましょう

１年生～80 分　2年生～90 分　3年生～100 分　以上

■学習環境を整えましょう（整理整頓、テレビを消す）

■取り組んだ家庭学習ノートは提出することを推奨します

（質問、学習状況の把握、今後のアドバイス等のため）

釧路市立春採中学校

年　　組　　番　氏名

国語の力をつける学習方法の例 （家庭での学習）

以下の4つにわけて考える

①覚える・暗記する　②読み取る・理解する　③まとめる・整理する　④表現する・書く

①覚える・暗記する（漢字や文法・歴史的仮名遣い・漢文のルールなど）

・漢字は書く数を決めたり、数を多く書くのではなく、読み方や意味を確認して数回書いて、そのときに手本を見ないで書けるようになっていればOK。
・漢字を書くときには、訓読みと音読みを確認する。そして、できればその漢字が使われている「熟語」を練習する。その方が漢字1文字を練習するよりも覚えやすいのと、意味もわかりやすくなる。
・文法・歴史的仮名遣い・漢文のルールは授業での説明や、教科書・ワークの解説を読んで理解できたら、自分なりにノートに整理する。当然自分ではわからないものもあると思うので、そのままにせず、忘れないうちに先生に質問する。
※覚える・暗記する内容は、一度やっただけではだめなので、数回くり返す。

②読み取る・理解する（a小説や物語　b説明文・評論文など）

a小説や物語

・「いつ・どこで・だれが・なにをした」かを意識して読む。
・それぞれの段落（まとまり）はどんな内容なのか、段落毎の起承転結を意識して読む。
・その時の人物の心情（気持ち）を考えて読む。情景描写などにも心情が表れているのを見つけられるとよい。

b説明文・評論文など

・構成（序論・本論・結論）を考えながら読む。その段落が全体の中でどんな役割（主張・具体例など）なのか。
・筆者が一番言いたいのはどんなことか。そのためにどんな例をあげて説明しているのか。
・筆者が言うことの根拠となっているものは何か。

以上のことを考えながら読むと、理解が深まる。

※すぐにできるようにはならないので、色々な文章を読み、読むときには自然に考えながら読めるようになるまでくり返す。

③まとめる・整理する　（記述式の問題に強くなる）

・②で読み取ったことを、自分なりにノートに整理する。
・小説や物語なら、視点や登場人物の人物像を整理したり、場面毎の内容をまとめたり、登場人物の変化をまとめたりして、ノートに整理する。
・説明文などは、序論・本論・結論毎に書かれている内容を整理したり、各段落毎に何が書かれているのかまとめたり、筆者の主張をまとめたり、具体例を書かれている順番にまとめたりと、書いて整理する練習をする。

④表現する・書く

・小説や物語、詩などの文章を読むときに声に出して読む。内容を理解したら、内容に合った読み方をしてみる。
・文章を読んで感じたこと、考えたことをノートに書き出す。

①～④全てにおいて基礎となるもの・必要となるものが**「語彙力」**。言葉の意味を知らずに文章の内容を理解することは絶対に無理。**「語彙力」**を高めるためには、文章を読んでいて、**わからない言葉があったらすぐに辞書をひく**。できればノートに語句と意味を書いて覚える。「調べた言葉ノート」などを作って整理して積み上げていくのもよい。

※ネットで手軽に意味を調べることもできるが、面倒でも国語辞典を使った方が良い。ニュアンスが微妙に違うものや誤った表記のものも多い。ネット上にあるものは信頼できるものかどうか、自分では判断が難しい。

社会科家庭学習のすすめ

１．社会科の学習について

人類の誕生から国の成り立ちなど、全てのことが今の世の中、そして、「自分」とつながっています。「他人事はない」という意識で、世の中のできごとに関心を持ち、目を向けて、どうすべきなのだろうかと**自分の考えを持ち、表現できること**や、自分で課題を見つけ、解決する方法はないのか考えたり、**これからの学習や自分の生活にいかしていけるようになれる**ことが社会科の学習です。授業中だけでは解決できなかったことについて、自分で考えたり、調べてみることで力をつけることができるようになります。

２．テストでどうやったら良い点が取れるのか？に答えます。（知識・技能）
学校で配付されたワークで重要語句を徹底的に学習する！

①　ワークに答えを書かない。１度書いてしまったら繰り返せない！
１回目は配付しているワークのノートに記入。点検有り。
２回目からはノートに記入。**ノートの使用方法は授業で説明します。**

②　答えがわからなかったら、**すぐに解答を見て**赤ペンで正しい答えを書きましょう。
悩んでいる時間がもったいないので、悩まずその時間の分繰り返し解きましょう。

③　１ページ分、解いたら〇つけをする。きりのいいところや半分にしてもＯＫ！
漢字の間違い、思い込みの間違いがないか、必ず「すぐ」に〇つけをする。
まとめて後で〇をつけたら何がわからなかったのかも、わからなってしまう。
全部答えを見て書いた場合、〇つけは必要なし。それでＯＫ。

④　１問でも間違えていたら「もう一度全部解き直す」
やりたくないよね、でも、今やったばかりの問題です。答えを知っているんだから、１０分あれば終わります。答えが分かっている問題は解くのが楽しい！だんだんやる気も出てきます。本当です。

⑤　あとは、②からを繰り返す。いつまで？「全部〇マル＝満点になるまで」
うわー面倒！と思ったかもしれませんが、慣れてきたら１５分以内で１ページは余裕でできるようになります。１ページで約１５～２０の語句を覚えられます。

⑥　たったこれだけで１００点満点のテストで６０点くらいはとれます。これだけ取れたら、社会が好きになります。
卒業生がこの方法で「やって良かった！受検で解けた！と大絶賛！！！」
そして、みんなが「**もっと早く**やればよかったー」と言ってます。

なぜ、６０点なのか？６０点は**知識・技能**の分。社会科は、重要語句を覚えるだけの教科ではありません。覚えた重要語句の内容を理解し、課題について予想したり、考えたり、解決したりする教科です。もちろん、授業中の話をきちんと聞いていないと解けない問題もあります。それらもしっかり復習してテストにのぞめば、１００点が取れます。

上で示した方法は１つの例です。自分で学習の方法を確立している人は、自分なりのやり方で行いましょう。また、この方法を自分なりに進化させてくれることにも期待します。**自分に合った方法は自分にしかわからない。それを見つけるものも勉強です！**

数学の家庭学習の方法

中学校数学科では、次のように、大きく分けて２つの学習方法があると考えられます。

①主に『計算・言葉の意味・計算方法の仕組みなど』についての学習に用いる方法
②主に『文章題や身の回りの現象を数学として捉え解決するなど』についての学習に用いる方法

１．①について

①はいわゆる基本問題です。

この分野は、反復がものすごく大事になります。

何度も繰り返し、問題を解いてみましょう。
間違えた問題は、何が原因で間違えたのかを把握して、次に同じ間違えをしないように完璧に理解できるようにしましょう。

ワークの「Ａ・Ｂの問題」や教科書の「問」を解くのがオススメです。

問題の解き方で悩んだら、解答を見て、解き方を確認しましょう。

２．②について

②はいわゆる応用問題です。ここができるようになるとテストで高得点ＧＥＴも期待できます！

この分野においては、考え方がものすごく大事になります。

①の範囲は基本的に授業で全て扱いますが、②の範囲については、授業の中で考え方を扱うものもあればそうでないものもあります。
まずは、授業の中で扱った考え方を完璧に理解できるようにしましょう。

〔理解する方法として･･･〕

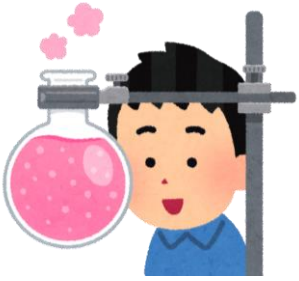
☆授業を復元できるようにすること！
（５０分の授業がどうやって、〇〇さんがこうやって考えたから･･･だからこうやって考えることで問題を解決できた！という流れ）
分からないところを整理し、先生や友人に聞いて疑問点を解決できるようにしましょう。
☆多くの問題に触れること！

ワークの「Ｃの問題」や教科書の「章末問題・基本の問題」を解くのがオススメです。

数学の家庭学習専用のノートを作り、勉強を進めると良いでしょう。

必ず毎日数学の問題を家庭で解く習慣をつけましょう。

理科の家庭学習について



理科は好き嫌いが激しい教科だといわれます。「生物・地学分野はいいけど、物理・化学分野は興味が持てず、勉強する気にならない」、「理科に対する興味が持てず、勉強する気になれない」といった悩みを多く聞きます。

理科は学習範囲が広く、一度苦手になると何から手をつければいいかわからなくなる場合も多くあるようです。

中学理科で苦手になりやすい分野とポイント

自分の苦手をチェックしてみよう！

① 計算が難しくてやっかい

学年	単元	内容	苦手になるポイント
１年	光・音・力	圧力の単位Ｎや Pa の計算	㎠（平方センチメートル）と㎡の単位合わせ Ｎと Pa の関係性
２年	電気の世界	電流や磁界	直列回路と並列回路の区別 電圧(V)電流(A)抵抗(Ω)の計算 公式と数値の関係で混乱する（V＝IR）
２年	化学変化と原子・分子	原子記号 化学反応式	原子記号と化学式の暗記 化学式の計算が理解できない

② 実験などで起きる事がらの理解が難しい

学年	単元	内容	苦手になるポイント
１年	光・音・力	力と圧力	ばねにおもりをぶら下げ、伸びた長さを計算する問題 指定されたおもりのつり下げ方を見て、ばねの伸び方がイメージできない
１年	光・音・力	水圧	水圧の変化を表示したグラフが意味することがわからない
２年	化学変化と原子・分子	原子のモデル	目に見えない世界を表す模式図を「考え方のモデルケース」として受け入れることができない

③ 暗記が多い、イメージしにくい

学年	単元	内容	苦手になるポイント
１年	大地の成り立ちと変化	火山と岩石	「火山岩」「火成岩」など名前がよく似ているものを区別して覚えられない
２年	気象とその変化	天気	前線の動きやそれが引き起こす天気の特徴などを、地図を見ながらイメージするのが難しい
３年	地球と宇宙	天体	太陽や月、星座の「見かけ上の動き」をイメージできない

④ そもそも理科という教科に興味がない、自然で起こる現象に興味がない

これらの苦手を克服するために

対策１　理科の教科書を音読し、つまずきを発見する　～　読みにくいところが苦手な所だ！

対策２　ワークや市販の問題集の問題に取り組む
～「これならできそうだ」と思える良い問題集に出会おう！ 問題集は薄い冊子で OK

対策３　理科に関する動画配信を利用して理解を深める　～　Youtube を有効に活用

対策４　「ここならできそう」という単元から始める　～　できるところから少しずつ

英語勉強法

~how to study English~

中学生になってから新しく習った英単語や文法事項がたくさんありましたね。皆さんは、それらを知識として定着させることができていますか？学校の授業の時間だけでは、恐らく不十分でしょう。そこで、おすすめしたいのが家庭学習です。とは言っても、家庭学習で何をしたらいいのかわからない、どんな勉強方法があるのかわからないなど、悩みを抱えている生徒もいるかと思います。そんな人のために、家庭学習でどんなことをすればいいかいくつか紹介します。

1 単語・熟語

まずは単語・熟語です。英語学習は、単語や熟語がわからなければ始まりません。新しい単元に入る際に、宿題として単語意味調べに取り組んでもらっていますが、その１回限りでは、その時は覚えていても時間が経ったら忘れてしまっていることが大半です。せっかくなら、１回覚えたものを長期記憶（long-term memory）にしませんか？

◎教科書の New Words（英単語とその意味）をノートに書く、読む
◎エイゴラボ（P2～P13）で小学校の単語を復習する
◎ミニラボを単語帳として使用、赤シートを使いながら継続的に単語を覚える

☆書いたり読んだりを繰り返すだけの暗記には限界があります。英語の暗記には工夫も必要で、「なぜこの単語ができたのか」「単語の意味にまつわる歴史」を知るとさらに覚えやすくなり、知識が深まります。

→「派生語」「語源」「史実」など

2 文法

次は文法です。単語や熟語を覚えることができたら、文法に取りかかりましょう。

◎教科書の Key Sentence をノートにまとめ理解する
◎教科書の Practice で練習問題を解く
◎エイゴラボの問題を解く→ミニラボで答え合わせ
◎市販の問題集に取り組む。（余裕があれば）

☆単語もそうですが、文法についても繰り返し練習を行うことが大切です。問題を解き進めていく上で、間違えた部分はそのままにせず、なぜ間違えたのかを調べ、同じ間違いをしないようにしましょう。また、文法を学習する際、こんなことを意識してみてください。

→語順・時制・品詞の役割を正しく把握する

文法の勉強は、語順、時制（現在・過去・未来）、品詞の役割を理解することが大事です。

EX）「can(～できる)」には、「can（助動詞）を使ったら後ろは動詞の原形を置く」というルールがあるなど、例文の丸暗記ではなく、仕組みを知ることが理解に繋がります。

→暗記するのではなく「理解」する

問題を機械的にこなすだけでは本質的な理解には繋がりません。わからない単語は意味を調べる、be 動詞の使い方を知るなど、「なぜそうなるのか」を追求して一つ一つ理解するようにしましょう。また、文法の理解度を確認するために他者に説明してみましょう。説明することができれば、その文法を理解していると考えてもいいかもしれません。是非、友だちや家族、学校の先生などに説明してみましょう！

3 教科書本文読解・本文訳

文法の理解が進んできたら、教科書本文の読解と本文を訳す勉強をしてみましょう。英語から日本語はもちろん、日本語から英語にすることにも挑戦してみましょう。さらに、本文の中で使われている文法にも着目できるといいですね。

Story 1　A Speech about My Brother

ある日の英語の授業で、朝美は兄の卓也(Takuya)についてスピーチします。

1 本文と質問を聞き、答えを○で囲みましょう。[Ⓐ Ⓑ Ⓒ]

Hello, everyone. Look at this picture. This is Takuya, my brother. He's twenty years old. He lives in Cebu, the Philippines. He studies English at a language school there. He meets many Asian students at school.

Takuya goes to school on weekdays, and sometimes enjoys scuba diving on weekends. Cebu has many beautiful beaches. He and his friends go diving together. He really likes Cebu. [65 words]

New Words
language
Asian
student(s)
weekday(s)
⇔ weekend(s)
scuba diving
has (← have)
his
dive, diving
Cebú セブ
... year(s) old
go ...ing

小学校の復習
old
beautiful
beach(es)
banana(s)

[ei] dive like

2 卓也がなぜセブを留学先に選んだのかを考えましょう。

◎教科書本文をノートに書き、日本語に訳してみる（英語→日本語）
◎日本語訳を見て、その訳に合うように英文を書く（日本語→英語）
◎エイゴラボの問題を解く→ミニラボで答え合わせ

☆教科書本文については、１文１文丁寧に訳すのも大事ですが、そこにあまりこだわりすぎず、書かれている内容を大体で捉えることも大切だったりします。モヤモヤする人もいるかもしれませんが、要点をおさえていれば大丈夫です！

4 教科書本文音読

英語学習において、英文を音読することも大切です。教科書の本文を音読することで、記憶に残りやすく、スラスラ読めることで自信もつきます。音読練習をすると、単語の並びが自然と頭に入るようになるだけでなく、単語の正しい発音とアクセントが身に付きます。また、日本語訳をあらかじめ覚えた上で音読すると、書かれている内容を理解しながら暗記もできます。音読は繰り返して行うと効果的です。
※教科書各ページの QR コードを読み取ると、本文と語句の音声を聞くことができます。是非活用してください！
◎教科書本文を音読する

☆ただ読むだけが音読ではありません。音読には様々なやり方があります。色々なやり方で練習することで、記憶力が高まります。そして何より飽きが来にくくなります。是非、色々試してみてください！
→色々な音読のやり方
・**普通に音読**：教科書を目で追いながら、英文を読み上げていくやり方。「The 音読」
・**リピーティング**：CD 音声が１文を読んだ後、ポーズの間に自分が英文を繰り返して音読するやり方。ポーズ音声がない場合は自分で１回１回音声を止めながら行う。
・**シャドーイング**：CD 音声を流し、CD のワンテンポ遅れで音読するやり方。少し遅れてついていくイメージ。基本的に教科書は見ないで行うが、難易度は高め。
・**オーバーラッピング**：教科書を見ながら、CD に合わせて英文を読み上げていくやり方。CD 音声に自分の声を重ねるイメージ。
・**暗唱**：教科書など、何も見ずに音読を行うやり方。暗記力も必要になり、これも難易度は高め。

最後に・・・

英語の勉強方法をいくつか紹介させていただきました。これが全てではありません。他にも勉強法はあります。自分に合う勉強法を見つけ、継続的な英語学習に励んでください。中学英語の勉強はとにかく繰り返すことが重要です。1 日 30 分からでも構いません。とにかく毎日の継続が必須です。日々の生活の中で、たくさん英語に触れ、記憶と理解の両方から英語技能の基礎を積み上げていきましょう！

『継続は力なり』~Practice makes perfect~